

MitraClip® による経皮的僧帽弁接合不全修復術

僧帽弁逆流(MR)は、心臓の左心房と左心室間にある僧帽弁が様々な原因で閉じきれず血流が逆流してしまう疾患です(図1)。



図1. 僧帽弁逆流(MR)

MR が進行すると心不全を起こすことになるため、薬物治療でも状態が安定していない MR の患者さんでは僧帽弁自体に対する治療が必要となります。その場合、外科的手術が基本とはなりますが、年齢や併存疾患などの影響で外科手術のリスクが高いため、手術の実施が困難な患者さんも一定数存在します。そのような外科治療が困難な患者さんを対象とし、外科手術よりも低侵襲的に MR を治療するために開発されたのが MitraClip(図 2)です。本機器を用いた治療では、大腿部の静脈よりカテーテルを挿入し、閉じが悪くなった部分の 2 枚の弁をクリップで接合させることで MR を減少させます(図 3)。



図 2 MitraClip®の外観

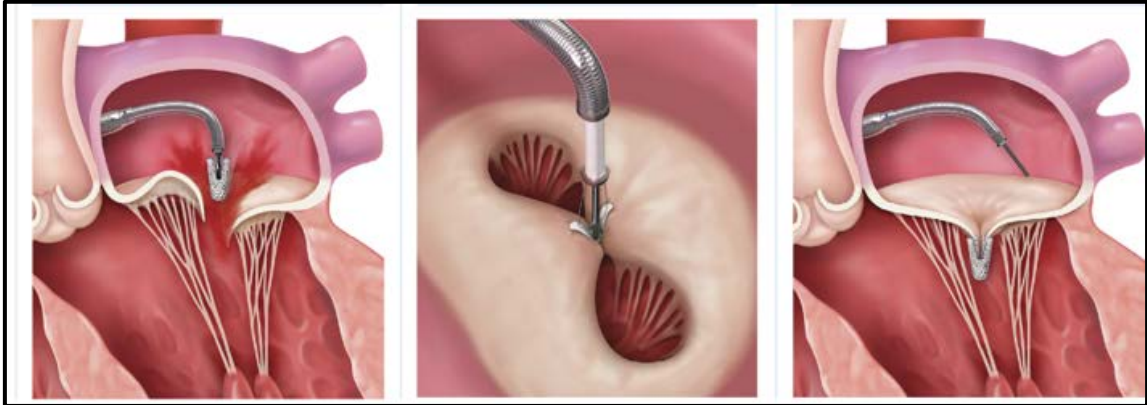


図3 MitraClip®による経皮的僧帽弁接合不全修復術

(全ての図はアボットメディカルジャパン合同会社より提供を受けております。)

当院でもMRを原因とした心不全患者さんの増加に伴い、患者さんのニーズに応えるべく低侵襲にMRを治療することを可能とするMitraClipを導入いたしました。

MRの治療に難渋している患者さん、MRに対する外科治療が望ましいが何らかの理由で実施できていない患者さんなどございましたら、お気軽にお問い合わせください。

MitraClip®による治療の対象となる方

- ・ 薬物治療では心不全コントロールが困難な重症僧帽弁逆流の方
- ・ 僧帽弁逆流に対する外科治療のリスクが高い方
- ・ 心臓の左室駆出率が20%以上ある方
- ・ 僧帽弁狭窄症を併発していない方

<お問い合わせは>

循環器病センター：0942-31-7628 もしくは

心臓・血管内科 医局：0942-31-7562(担当:光武、石松、本多)